

スラヴ語スラヴ文学専門分野 大学院夏季入試説明

※詳しくは、募集要項で確認してください。要項に記載されていることが優先されます。
対面入試ができる場合は、筆記試験・面接・卒論に代わる論文の審査で行うとします。

○入試日程

2021年度 修士課程 夏季入試

出願：2020年6月15日（月）～22日（月）

第1次試験（筆記試験）： 8月29日（土）

第2次試験（口述試験）： 9月5日（土）

※冬季入試の募集の説明会は7月、入試は1～2月に行います。

○入試科目・内容（対面入試が可能な場合）

第1次試験（筆記試験）：

○外国語（英・独・仏・伊・西から1つ選択）

※外国人受験者は日本語受験も必須です。

○ロシア語学・ロシア文学を中心に、スラヴ語学・スラヴ文学に関して、
知識、読解力、表現力、論述力を試験する。

第2次試験（面接試験）：申請書類、研究計画書および卒業論文に準ずる参考論文に
基づいて面接を行う。

○過去の入試問題集

東京大学文学部複写センターで扱っています。

通信販売 <http://www7b.biglobe.ne.jp/~printservice/netshop.html>

○スラヴ語スラヴ文学研究室の紹介

※詳しくは 研究室のHP をご覧ください。 <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~slav/>

大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学専門分野では、テキストに依拠した言語・文化研究を行っており、古代・中世から現代まで、亡命（ディアスポラ）を含むスラヴ語圏の文化・語学全般を研究することができます。ロシア語・ロシア文学を専門とする人が多いですが、ロシア以外のスラヴ語圏の語学・文学、また、文学以外の映画、舞台芸術、フォークロア、メディア論など多岐にわたるテーマに取り組んでいる人もいます。テーマ選択や研究の進め方については院生の自主性を尊重しています。

院生の出身大学はさまざまです。博士課程からの入学も広く受け入れています。また、社会人としての経歴を積んでから入学する人も多く、院生の年齢層はきわめて幅広いです。

在学中に多くの人が長期留学します。行き先はロシアのほか、ポーランドや旧ユーゴスラ

ヴィアなど、スラヴ語圏全体に渡ります。博士課程進学後に留学先で学位を取得する人も少なくありません。

大学院生には、日本学生支援機構や日本学術振興会による奨学金・研究助成のほか、人文社会系研究科による助成制度があります。また、留学に際しても、日本学生支援機構や日露青年交流センターその他の助成金を、多くの人が獲得しています。

○修了後の進路：進学のほか、一般企業へ就職したり、ロシア語力を生かして商社や翻訳会社、新聞社・出版社などのマスコミ、公務員や、語学学校経営などさまざまです。近年では修士課程修了後専門調査員として在外公館に赴任する者もあり、選択肢が多様化してきました。

○授業の一例

ロシア語テキストを使用する授業が多いですが、ポーランド語やチェコ語、セルビア語・クロアチア語・ボスニア語、ブルガリア語、ベラルーシ語の授業も開講されています。

言語学的な授業や、文学作品や詩の講読・分析を行う授業の他に、ソ連・旧東欧の映画を鑑賞し、その地域の専門家が解説を行い、歴史や文化に対する理解を深めることを目的とする授業もあります。

授業ではしばしば、他大学や外国からもゲスト講師を招き、広い視野で多角的な研究を行うことを目指しています。

○最近の学位取得論文例

博士論文：

「近代ロシアと「啓蒙」の方法：O.Π.コゾダヴレフの文筆活動を通して」

「アレクサンドル・ブローク 批評と詩学—焼身から世界の火災へ—」

「ボリス・パステルナーク『ドクトル・ジヴァゴ』におけるモチーフの構造研究」

「オレーシャ『羨望』草稿研究」

修士論文：

「〈余計物〉のユング心理学的分析の試み：トゥルゲーネフ『ルージン』を中心に」

「レフ・トルストイ『要約福音書』研究」

「サブカルパチア・ルシン語に置ける前接語—記述されたテキストに基づく前接語の挙動に関する考察—」

「現代ポーランド語における所有完了の用法について」

○各専門分野の教員紹介

三谷恵子（教授）：研究分野 スラヴ言語学

スラヴ語の通時態と共時態の双方を見ながら、言語域としての中・東欧地域の文化の諸相を研究しています。

楯岡求美 (准教授) : 研究分野 ロシア演劇・文学・文化論

19世紀以降の近代化におけるロシア・ソ連の芸術と社会との関わり、ロシア語文化への非ロシア語圏出身者の影響について研究しています。

越野 剛 (助教) : 研究分野 ロシア・ベラルーシの文学

19世紀ロシア文学、特にドストエフスキーの作品を「病」の表象から読み解く。ベラルーシ語およびベラルーシ文学を中心に、旧ソ連のマージナル地域の文学比較や中国など社会主義体制国家の文化表象比較を研究しています。

協力教員

阿部賢一 (現代文芸論専門分野所属) : 研究分野 東欧文学 (チェコ文学)

チェコを中心とする中東欧文学、比較文学。とりわけ、多言語空間プラハにおける文学・美術の相互作用について研究を進めています。

担当授業 「チェコ語」「チェコ文学読解」

○最近の研究室による研究公開活動(シンポジウムや講演会など)

シンポジウム・講演会

* 『ロシア文化事典』出版記念シンポジウム

「謎のロシア、魅惑の文化ーロシア文化史への新しいアプローチ」

* 赤尾光春氏特別講義「ロシア帝政期末期における3言語によるユダヤ系文学の系譜」

* シンポジウム「映画を観れば『今のロシア』が見える」およびサリニコフ監督『目を閉じれば見える』(2019)上映 (第3回ロシア映画祭 in 東京)

* 日本スラヴ学研究会特別講演会「緑のスラヴ文学ー中東欧のエコクリティシズム」

* タマーラ・フンドロヴァ氏特別講義「タラス・シェフチェンコの二つの顔」

* エヴァ・パワシュ＝ルトコフスカ「永遠と私のあいだー1840年代のロシアへ」国際交流基金賞受賞記念講演会 など

研究会

* 社会主義リアリズム文学研究会

* 「社会主義文化のグローバルな伝播と越境」研究会 など

○刊行物:紀要

* ≪Slavistika≫ バックナンバー: 東京大学学術機関リポジトリ

(UTokyo Repository) <https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

問い合わせ先: slav◆l.u-tokyo.ac.jp

* ◆を@に変えてください。